

りくつなま

安原工業団地協同組合 会報

2007.3
第2号

発行 ■ 安原工業団地協同組合 〒920-0377 金沢市打木町東1400番地(金沢市異業種研修会館内)
TEL (076)240-1411 FAX (076)240-1903



理事長就任にあたって

安原工業団地協同組合

理事長 米澤卓也

この度、谷村前理事長の病気退任に伴い、12月8日の理事会におきまして理事長に選任されました。もとより浅学非才の身であり、その責任の重さをあらためて実感しているところです。組合事業の遂行におきましては役職員の皆様は言うに及ばず、全組合員の皆様のご協力を頂かなければおぼつかないと考えておりますので何卒よろしくお願い申し上げます。

安原工業団地は昭和51年の第一次分譲から平成9年の第四次分譲にわたり金沢市により造成分譲された団地であり平成8年には協同組合が設立されました。また平成11年には金沢市の『モノづくり』支援施設である金沢市異業種研修会館が開館し指定管理者制度により当組合がその運営を担っています。

様々な業種が集い、その8割以上が従業員10人未満の企業という、全国的にも極めて特異なこの組合をまとめ上げ様々な事業を展開されてきた先人のご苦勞に感謝するとともに今後とも地域に密着した組合の特性を生かして時代の要請に応じた事業運営をこころがけて行きたいと思いをします。

さて、現下の経済状況はいざなぎ景気をこえたといわれ戦後最長の好景気だといわれています。しかしながら生活者の実感としてはどこが好景気?という所が実体です。大企業と中小企業、都市と地方、そういった格差が更に進んでいるような気がします。現に県内の中小企業の中においても大きな格差が生じています。石川県中小企業団体中央会の実態調査によると経営状況が良いと答えた企業が従業員100人~300人の企業では58.8%であり1人~9人の企業では21.7%と半分以下になっています。一方悪いと答えた企業は従業員100人~300人の企業では5.9%であり1人~9人の企業では46.7%と8倍近くになっています。われわれ中小零細企業を取り巻く環境は依然厳しいと言わざるを得ません。

個々の組合員の企業経営につきましては経営者の皆さんが充分にその経営手腕を発揮されることをお祈りしつつ、組合といたしましても組合員の企業の皆様に少しでもお役にたてるよう、町会はもちろんの事、金沢市や他の各種団体と連携をとりながら従来の事業をしっかりと運営し、さらには新たな展開を模索していきたいと思いをします。

最後にあらためて組合員の皆様にご指導、ご協力をお願いして就任のご挨拶と致します。

新理事長に米澤氏就任 谷村氏病氣療養のため退任

平成18年5月に就任し組合事業を推進していた谷村達夫氏は、8月末に体調不良のため休養願いを提出され11月末まで休職することとなり、定款の規定に基づき筆頭副理事長の大平邦久氏がその間の理事長代行を務めることとなり、9月11日の第5回理事会で了承された。谷村氏は療養に努められたが公務復帰には不安があるとして11月下旬に退任願いを提出され、11月24日の第6回理事会で受理された。

定款の規定で、理事長は理事の互選によるため現理事の中から選出することとなり、若い世代の活力に期待したいという意向をふまえ、副理事長を中心に、顧問、監事とも協議を重ねながら選考が行われ、12月5日の第7回理事会において、暁化学工業(株)代表取締役社長の米澤卓也氏を推薦し、全員一致で承認された。米澤氏は「自分はまだまだ未熟で微力ですが、皆様のご協力を頂いて組合のために尽力したい。」と就任を受諾された。

現理事は全員留任し、新理事長の意向で役割分担も現行通りということで了承され、翌12月6日より新体制の船出となり、組合業務も順調に進んでいる。

新年懇親会 賑やかに開催

米澤新理事長就任初舞台は大盛会

新春恒例の組合・町会合同の新年懇親会は、平成19年1月5日(金)金沢都ホテル5階の加賀の間に会員・来賓を合わせて73名が出席し開催されました。



山岸春美副理事長が司会を務め、冒頭の挨拶は米澤卓也新理事長の初舞台となり、自己紹介と就任の抱負に続き新年の挨拶を述べられた。次に北卓町会長が挨拶し、その中で次

期町会長が決定したことを報告された。また来賓を代表して金沢市長(代理)近藤義昭収入役、下澤佳充県議会議員、井沢義武市議会議員が祝辞を述べられ、中川伊佐夫安原地区町会連合会長が乾杯の発声を行い和やかな宴会が始まった。アトラクションでは、昨年プロデビューした福増町在住の若手民謡歌手加賀山紋さん(写真)が得意の曲を披露し大喝采を受けた。

会場は終始賑やかな会話や笑い声が絶えず、参加者一同は大満足のうちに中締めとなり中村俊彦次期町会長の発声による万歳三唱でお開きとなった。

ソフトボール大会熱戦を展開

安原工業団地町会主催の27回ソフトボール大会(安原工業団地協同組合協賛)は平成18年9月17日(日)、安原小学校グラウンドで開催されました。当初9月10日



の予定があいにくの荒天で1週間延期されたため3チームが棄権、16チームの選手・応援を合わせ約600名が参加、北卓町会長の挨拶で試合が始り、白熱した試合が続き、好プレーや珍プレーが続出し大いに盛り上がりました。結果は優勝2・3・4班合同チーム、準優勝(株)日海、3位(株)米澤製作所・(株)金石製作所でした。閉会式では大平邦久協同組合理事長代行が賞品を授与し講評を述べて全日程を終了しました。

まち全体が「トヨタ」!

「愛知県トヨタ自動車工場視察旅行」

平成18年度金沢市工業団地連絡協議会、安原工業団地協同組合合同研修旅行が10月27日(金)から10月28日(土)にかけてトヨタ自動車堤工場及び上郷工場、トヨタ会館、産業技術記念館、徳川美術館など参加総数36名、内、安原工業団地協同組合から大平邦久副理事長他5名の参加で行われました。

トヨタの各工場やトヨタのオフィスビル、大型看板などが立ち並んでおり、まちが「トヨタ」一色であり、あたかも、どこかのテーマパークのような風景でした。

工場内は、一つの生産ラインで多種類の車の組み立てやエンジンの組み立てが行われておりました。これ



は社員の提案により、社員が作業時間の中で異なる作業を行うことにより単純ミスを防ぐためだそうです。

また、工場内はトヨタが誇る「カンバン方式」、「5S運動」を取り入れ生産ロスを少なくし、また従業員には、「QCサークル活動」「自主保全活動」「創意くふう提案制度」などを設け、単純ミスに陥りがちな仕事に対する意欲や工夫を社員から提案し、それが採用となれば即実行し実績に繋げるなど、世界のトヨタの強さの秘密を感じ、生きた研修会旅行でした。

敷地面積、東京ドーム16ヶ分！とにかく広い「コマツ栗津工場視察研修旅行」

平成18年金沢市工業団地連絡協議会、安原工業団地協同組合合同の研修旅行の第2弾が、11月10日「コマツ栗津工場」にて、参加総勢27名、内、安原工業団地組合員10名の参加で行なわれました。とにかく驚いたのは敷地面積710,000㎡、なんと東京ドーム16ヶ分に相当する広さで、その中に2,800人の方々が働いています。

栗津工場では、ホイールローダー・油圧シャベル・ブルドーザー等重機と、トランスミッション等のコンポーネントが生産されています。特にトランスミッションは、国内はもとより全世界のコマツグループ及び他社メーカーに供給されており、一極集中開発・生産されています。

組立工場はコンピュータネットワークを活用し、組立計画に合わせて自動的に部品管理、供給が行なわれ、また、全ての製品がコンピュータで検査され品質が保証されています。しかし、組立自体は人が行っており、少量多品種を1ないしは数人で最後まで担当していました。コンピュータネットワークと職人技の合体を感じさせられました。

※写真撮影は当然といえば当然、機密保持のため禁止で、ゲストハウスでのレクチャー風景だけです。



平成18年度文化講演会を開催

■丹羽俊夫先生、熱弁をふるう

11月13日(月)金沢市異業種研修会館において、平成18年度文化講演会を開催しました。講師は金城大学短期大学部日本画主任教授丹羽俊夫氏で、テーマは「今の日本の教育に欠けているもの」。

山岸春美副理事長の挨拶後、丹羽氏は家族教育、生活教育を軸とし、具体的な例を上げられ、わかりやすく楽しく講演され、過去の歴史と教育にも触れられ、日本人はもっと日本のことを学ぶべき、うわべだけでない真の日本の歴史、地理、修身(心)の教育が必要と結ばれました。63名の参加がありました。



女性部

18年度下半期の活動報告

今年度の研修会は、「豊穡なる大地、安原の農産物にふれよう！」をテーマに9月30日、下安原町の金沢市農業協同組合南部集出荷場においてメロンの収穫体験や集出荷場の見学を行いました。



喜多治久場長や安田伸一メロン部会長の説明を聞き、現場では全自動コンベアラインの稼働、検査過程等を見学し地場産品を全国ブランドにと力を入れた農業生産者の大いなる心意気を実感するとともに、ものづくりに関わる者同士の相互理解を深めました。

また、今年度は2回を予定しており、3月中旬に加賀野菜を取り入れた菓子づくりの講演及び体験を予定しています。



10月11日から10月12日の2日間、女性部中央会主催「レディス中央会全国フォーラムin石川」が開催され、全国から約400名の女性部の代表が集まりました。

1日目は、能登地区と金沢地区の二会場においてそれぞれ輪島塗の実演や兼六園の時雨亭でのお茶会等地域の特徴を生

かした開幕で参加者を迎え、楽しんでいただきました。

2日目はメイン会場にて全体講習会と懇親会をホテル日航金沢で行いました。

来賓に谷本知事始め金沢市長代理賛助役等のご出席をいただきました。基調講演は、「まちづくりは住民自治から」のテーマで日本経済研究センター客員教授吉野源太郎氏が行いました。

そしてパネルディスカッションは産業や石川の文化伝統の奥深さのある地域力を生かした提案が発表され、全国に発信できたと確信します。

ともあれ、2日間に渡り、「おもてなしの心」を色々な場所で具体化させ、お迎えした私たちも加賀女性らしく、熱い心で皆様に接して、2日間の役目を無事終える事ができました。

当組合女性部は16名が参加し、受付や来賓の接待で奮闘しました。

平成19年1月5日は組合と町会共催の新年会が行われ、女性部から11名が参加し、民謡歌手の加賀山紋さんの歌で女性部全員が「炭坑節」を踊り新年の会を盛り上げました。



青年部
18年度下半期の活動報告

青年部は今年度に入り新入会員3名が加わり総勢36名で活動しています。昨年9月から今年2月までの活動について報告します。

**9月17日(日)
「ソフトボール大会」**

準備、運営に参加させて頂きました。

**10月13日(金)から15日(日)
「視察旅行 北京」**

毎年行っている事業の一つです。最近の中国の景気向上・発展について少しでも我々の参考になるものがあるのではと今年は視察場所を北京にさせて頂きました。参加部員は7名で13日関西空港より出発。北京首都鉄鋼公司という製鉄所を視察してきました。敷地面積は自山市とほぼ同じ広さで従業員数も3万人というとても大きいサイズの工場でした。



さらに敷地内には貨物の輸送用の鉄道、金沢港と同等以上の港もあり、規模の大きさに驚かされるばかりでした。

**10月27日(金)
「加賀野菜 源助大根収穫祭」**

源助大根収穫祭は青年部の活動の中でも特に力を入れて取り組んでいる事業の一つです。

加賀野菜とは昭和20年以前から栽培され、現在も主として金沢で栽培されている野菜の中から、現在「源助大根」を含め15品目が「加賀野菜」として認定されています。

安原工業団地周辺では「加賀野菜」の栽培が盛んに行われています。青年部としては、今一度「加賀野菜」の認識を深め収穫を通じて地域の発展と交流が活性化することを目的に本事業を始めました。



「源助大根収穫祭」は本年度で2回目となりました。昨年8月ごろより準備を進め10月27日(金)に昨年度同様、ミドリ保育園の園児にもお手伝いを

してもらい、当日は雲ひとつない晴天のなか約2,000本の「源助大根」を収穫することが出来ました。園児たちにも収穫を通じて、作物を栽培する大変さ、収穫の喜びを知ってもらいました。

また、本事業にご理解ご協力頂き、畑をお貸し下さいました打木町会長の小林宣洋様はじめご協力頂きました皆様にはこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。来年度も引き続き本事業を行う予定です、皆様のご協力をお願いいたします。

**11月10日(金)
「石川県中小企業青年中央会 30周年記念式典に参加」**

青年部が加入しています「石川県中小企業青年中央会」は昭和51年に発足し本年度で30周年を迎えました。その節目として、11月10日(金)ホテル日航金沢において創立30周年記念式典及び祝賀会が開催されました。



来賓として、谷本正憲石川県知事、山出保石川県市長会会長、杉浦雅人全国中小企業青年中央会会長、五嶋耕太郎石川県中小企業団体中央会会長をはじめ県内外の関係機関、会員など約200名が出席して、創立30周年を祝いました。

この式典の中で、当青年部の活動が組合組織の振興発展に多大な功績があったと認められ、石川県中小企業青年中央会会長表彰を受賞致しました。

この受賞を機会に今後さらに地域の活性化の為に努力していくつもりです。

**2月3日(土)
「新年会」**


参加部員15名で19時より、金沢駅近くの「高崎屋」にて18年度青年部新年会を開催いたしました。

本年度の青年部の事業はすべて無事終わることができました。組合の皆様のご理解、ご協力のお陰と感謝しております。来年度もよろしくお願いたします。

あ と が き

記録的な暖冬で、安原地区も積雪が無いまま春になりそうな気配です。地域の古老の話でも、こんな経験は初めてということでした。

会報第2号をお届けします。突然の理事長交代ということがありましたが、組合の事業は順調に進められています。暖かい季節のように各企業の業績も上昇して欲しいものです。

発行責任者 米澤 卓也
編集委員 相川外志子、岩上 伸人、大平 邦久
奥野 龍雄、小番 久典、田中 泰
塚本 一樹、入口 吉男、山口美枝子